

平成27年12月1日

会員各位

協会だよりー276(12月号)

JCRA(Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

トピックス

- 第227回月例会（講演会・新年会）を開催いたします。
 - 日時：平成28年2月4日（木）14：00～19：00
 - 場所：如水会館（一ツ橋）
 - 講演：①北海道大学が開発した新プラチナ触媒
講師：北海道大学教授 福岡 淳 殿
②植物が行う光合成とそれを利用した物質生産について
講師：東京大学教授 和田 元 殿



- 一. 協会よりのお知らせ
【実施済事項】
【予定事項】
- 二. 40周年記念祝賀会が終わって
- 三. 事務局より（十二月度の予定）
- 四. 南部アフリカ四か国を訪ねて
- 五. 【雑学】町田を歩く③（岡上・三輪を巡る）

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① **協会だよりー275 (11月号)** をメール&郵便で送信（11/2）
- ② 第六回運営委員会
日 時：11月5日（木）16：00～17：00
場 所：堺化学工業(株)東京支店
議 題：40周年祝賀会の準備。新年会・講演会。
- ③ 創立40周年記念祝賀会
日 時：11月16日（月）18：00～20：00
会 場：如水会館・松風の間（一ツ橋）

④ 創立記念ゴルフ大会

日 時：11月17日(火) 9:00スタート 5組

コース：相模原ゴルフクラブ(相模原市南区)

参 加：17名

【予定事項】

⑤ 第七回運営委員会

日 時：12月17日(木) 16:00~17:00

場 所：堺化学工業(株)東京支店

議 題：第227回月例会(新年会)

2. 40周年記念祝賀会が終わって



茂木 正 経産省化学課課長のご挨拶

三浦 章 会長のご挨拶

11月16日(月)18時より如水会館(一ツ橋)松風の間にて、来賓に茂木 正様(経済産業省製造産業局化学課課長)、市石知史様(触媒工業協会会長)を始め来賓 9 名のご出席をいただき総員 110 名のご出席で盛大に祝賀会が開催された。

細田頭治副会長による開会の辞、三浦 章会長のご挨拶、茂木 正様、市石知史様よりご祝辞をいただき、アジア物性材料(株)の鶴岡 武様の御発声による乾杯で祝賀会が催された。協会の発展に尽くされた会員 OB も 14 名出席され、また会員会社よりは 15 名もの代表取締役社長もご出席いただいた。久しぶりのご歓談、2 時間もあっという間に過ぎ宮崎隆史副会長による中締めとなった。ご参集の皆様有難うございました。



市石知史触媒工業協会会長のご挨拶

鶴岡 武 第八代会長の乾杯御発声



協会の発展に尽くされた会員会社 0B の方々 (三浦 章会長を囲んで)
前列：須藤、市村、三浦 (良)、三浦 (章)、清水、鶴岡、西川
後列：佐渡、川原、田中、和田、大藤、藤井、山本、小林 (敬称略)



創立 40 周年記念祝賀会運営に協力いただいた会員会社の方々





創立 40 周年記念ゴルフ大会参加の皆様
於：相模原ゴルフクラブ (2015. 11. 17)



3. 事務局より (12月度の予定)

月	火	水	木	金	土
11/30	1	2	3	4	5
× (G)	○	○	×	○	×
7	8	9	10	11	12
○	× (C)	× (C)	× (G)	○	× (W)
14	15	16	17	18	19
× (G)	○	○	運営委員会	× (W)	×
21	22	23	24	25	26
	○	×	×	○	× (G)
28	29	30	31	1/1	1/2
12/26 (土) ⇒1/4 (月) (10日間) 冬季休暇					

12月度の出勤予定：9日間、×赤字は個人予定有。

4. 南部アフリカ四か国を訪ねて

アフリカはエジプト、中部ケニアに次いで、3度目の訪問で南部4ヶ国を訪ねた。念願がかなって満足したのは、昨年同一のツアーを申込み直前に頭部打撲で入院し、キャンセル料を支払ったのでリベンジの気持ちもあり今回の旅となった。

南アフリカ(PPC-Seを売っていた)、ザンビア(以前Seを輸入したことがある)、ジンバブエ、ボツワナ(ダイヤモンド原産地)の4つの国を訪ね、滝、喜望峰等の見学をした。香港経由で南アのヨハネスブルグまで乗り継ぎを含め、約20時間で着く。南ア航空は敷布団があり、よく休めた。最初の訪問地は南アフリカ行政府のあるプレトリア市で、10月は南半球の桜と称される「ジャカランタ」の花で街が紫色に染まる



る時期で市街のあちこちで紫の花が咲き競っている。原産地ブラジルから輸入したもので、市内に7万本もあり名物となっている。ジャカランタ花木は桜と異なり、1~1.5ヶ月と花寿命が長く、地球の南側至る処にあるが、当地の如く群落は珍しい。ハワイの日系人が日本の桜を偲んで、紫桜と呼んだらしい。尚プレトリアの人たちは

我々の様に花見と称する宴会はやらない。更に南下、2時間の飛行でケープタウンに着き、丘の上からアフリカ最南端の街夜景を見て宿に入る。翌朝国立公園テーブルマウンテン(食台形で高度1087米)にケーブルカーで登るも霧が深く残念、天気の良い日は喜望峰まで望める由。バスで移動、インド洋と大西洋が出会う岬として知られているケープポイントの高台の灯台で南極方向を望むも見えるはずはない。天気は快晴となり気温15度と最適、近傍の「喜望峰」へ移動する。資料によるとアフリカ大陸最南西端のケープ半島に位置する喜望峰岬付近は強風が吹き荒れることから最初のポルトガル人デアスは「嵐の岬」と命名しここから折り返したのが1488年である。



9年後ヴァスコダ・ガマはここを通過しインド洋を発見しており、故国ポルトガルに希望をと願いを込め喜望峰(Cape of Good Hope)と名付けた。以前書いたが、ポルトガルの船員は赤道の暑さから、先に進むと体が溶けてしまうと信じていたのを王子が説得し更に南下させており、先の経緯となった。海岸のこの看板との撮影が人気で、順番待ちが長蛇の列となる。近くに野

生ペンギンの住み付いている地があり沢山の群れを見かけ、時折鯨の家族が現れる。周辺一帯は国立公園で、原野に南ア国花「プロテア」の古木が咲き乱れており見事だ、大きな花の咲く花木で日本でも生け花に使われている。中でも最大級の花を咲かせるキング・プロテアの花言葉は「王者の風格」である。元々南アフリカ北ケープに



ナマクランドと呼ばれるエリアあり、年に一度春が(8~10月)が訪れ雨が降りそそぐと砂漠が一変し色鮮やかな花が一斉に咲き乱れ、見渡す限りワイルドフラワーの花畑、は「神秘の花園」とも称される。夕方市内へ戻りカラフルな街並み「マリーク クオウター」地区散策後ビッグマーケットで解散。翌日3時起き、弁当持参で空港へヨハネスブルグ乗り換え後リビングストン着、空港でビザ取得

(\$50)に長蛇の列、パスポートに貼り付け3ヶ国に利用される由。早速ビクトリアの滝に向かう途中、寸胴で不格好なバオバブの樹を見かけるも大木は樹齢1500年以上らしい。滝はジンバブエとザンビアの国境を流れるザンベジ川の一部にあり、南米のイグアスの滝、北米のナイアガラの滝と世界三大瀑布にされている。



1855年英国探検家が大英帝国ビクトリア女王の名を取り「ビクトリアホール」と命名し、規模は幅1,7キロ米、高さが150米もある。最初ザンビア側から見学後、更によく見えるジンバブエに入国し、4キロ川沿いを歩き全容を認識できた。乾期で水量が少なく崖だけの部分もあるが、本流は轟音を発しすさまじい景観である。全長に13ヶ所の見学場が指定され、起伏の多い坂道はきつか

った。丁度満月の日だったので、月明かりで滝に虹が掛かる現象、「ルナレンボ」は幻想的と聞き、トライしたが歩き疲れるだけで虹はぼやけひどい目にあい、やっとホテルの部屋に着く。気温33度と暑い、蚊が多くマラリヤ予防の為ベッドに蚊帳が吊ってあり、退治にケニアの経験から蚊取り線香は頼りないので、液状スプレーを持参し一回の噴射で効き目が12時間と強力だ。初回は浴槽水面に大群の蚊死がい浮かび驚いたが、以後はスプレー効果で量は激減する。しかし蚊帳の外の羽音を聞くとやはり気持ちが悪い。滝の発見者リビングストンの奥さんも英国から移住し、マラリヤで死亡しており、くわばらくわばら。



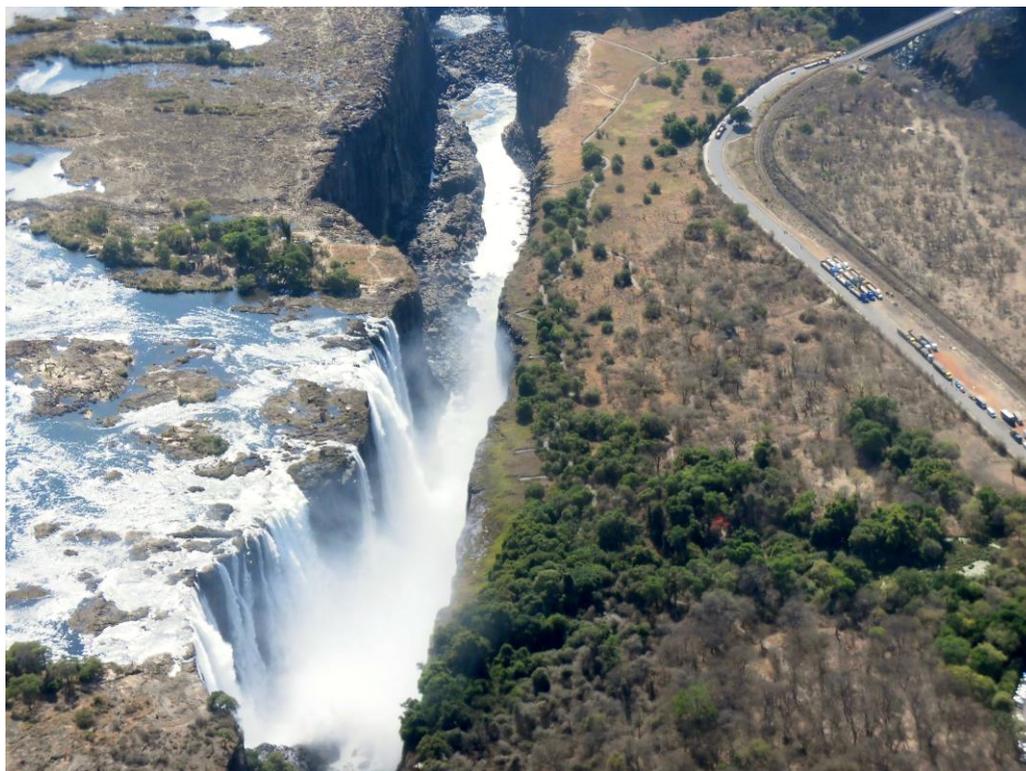
翌日ボツワナ国へ移動、チョベ国立公園でのサファリツアーに出掛け、専用車両でチョベ川沿いを走るも、沢山の象の群れにあう、公園にアフリカ象が7万頭もいると称され、生後3日の赤ちゃん子象は可愛かった。泥浴びで寄生虫の駆除と乾燥防止



を図っていた。他に、インパラ、キリン、バファロウ、イボイノシシ、ワイルドドッグ、ヒヒ等もいた。

午後川のクルージングで中の島に象、インパラ、カバ、鱔らがいるもついにライオン、ヒョウにはお目にかかれず。夕食は野生動物のバイキング、イボイノシシのバーベキュウは最高、芋虫のから揚げも美味でビールのつまみに最適だったが、ライオン好物のインパラの丸焼きは皮が硬く人気がなかった。

宿の入り口に沢山実の付いた樹があり、美味しそうなのでガイドに聞くと甘くてうまいし、食べると奥さんが喜ぶとの事強勢力効果があるらしく、彼も食べるかとの問いに自分は食べなくても奥さんは満足？



帰国日の早朝滝見学にヘリコプタ・基地に行く、6人乗り席決めジャンケンで一番となり、パイロット隣席に座るも、前面180度と上下全開で最高。機は数分で広大な滝の上空に達し、大きく旋回深い崖の連なる姿が見えた。今は乾期なるも2~5月の雨期は川の周辺まで河となり、視界の崖は滝となり膨大な水量が150米の落差を流れ落ち、想像を絶する状況が思い浮かぶ。15分後基地に戻ったが、川沿いの景観と異なり高価な代金も安く感じた。滝の隣にゴルフ場を見つけたが、プレイヤーはおらず。以上南アフリカの旅は予想以上に楽しく印象に残るツアーであった。

以上 鶴岡記

5. 【雑学】町田を歩くⅢ（岡上・三輪を巡る）

「町田を歩く」の第一回は町田の中心街・原町田、第二回は近藤勇（新撰組）とも交流のあった小野路の里であった。第三回は奈良の三輪より移住した人たちが開いたという三輪・岡上を巡ることにする。小田急線鶴川駅の南を鶴見川が流れている。鶴見川の南が川崎市麻生区岡上である。岡上と町田市三輪は隣接し散策の道としては県境を跨いで東京都と神奈川県を入ったり出たりする場所にある。

《岡上》

北方を鶴見川が流れ、東京都町田市と横浜市青葉区に囲まれる川崎市麻生区の飛び地である。岡上村は武蔵国都筑郡に属していたが、江戸期には多摩郡に属していたこともある。1889（明治22）年施行の町村制でも他の村と合併しないで単独の村を維持していた（柿生村組合には属していた）。従来からの柿生村との交流を重視し、1939（昭和14）年に柿生村と共に川崎市と合併して大字となる。岡上村と柿生村の間には三輪村があり、三輪村は東京府南多摩郡鶴川村三輪となったため、鶴川村と横浜市に囲まれた飛び地となった。平成25年現在、面積1.45㎡、人口は6700人ほどとなっている。通勤としては小田急線鶴川駅が便利である。

《三輪》

北方を真光寺川・鶴見川が流れ、地内で合流している。東・西・南の三方向は神奈川県に隣接している。北方向は小田急線を挟んで町田市能ヶ谷五丁目に接している。接している距離は袋を縛った口のように、わずか300～350mほどであり、ぐいと神奈川県に食い込んでいる地区である。古くは大和国（奈良県）城上郡三輪から移住開発したゆえにその名称があると伝えられている（周辺には香山・奈良などの地名が残っている）。江戸時代は基本的に三輪村一村だが、谷戸が多いこともあって、上・下にわかれ、独立性が強かった。1889（明治22）年鶴川村の大字、1958（昭和33）年の町田市制施行により、町田市三輪町となる。その後、三輪町の南部は野村不動産による大規模な宅地開発と区画整理が行われ三輪緑山1丁目～5丁目となった。平成27年現在人口は6600人ほどで岡上と匹敵している。通勤としては南地区が鶴川駅、北地区はやや柿生駅が便利なようだ。行政上・三輪は東京都だが電話は川崎局(044)となり、鶴川駅前より発信するときは市外通話となる場所にある。



《コース》 鶴川駅(スタート)⇒①岡上神社⇒②東光院⇒③熊野神社⇒④高蔵寺⇒⑤相山神社⇒⑥地藏堂⇒⑦廣慶寺⇒⑧妙福寺(ゴール)⇒バスにて鶴川駅に戻る。

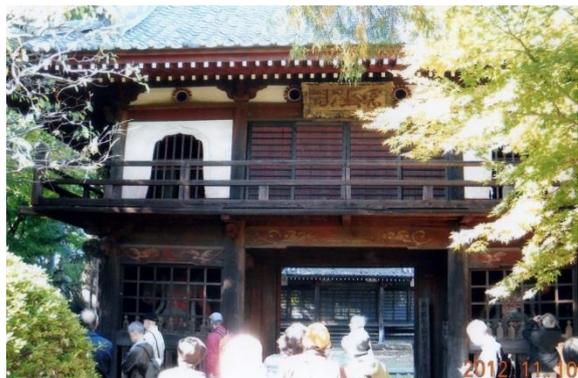
鶴川駅西側の踏切を渡ると、すぐ鶴見川に達する。岡上跨線橋を仰ぎ見ながら川沿いに歩く。鶴見川を渡り、裏道の登り坂を行くと岡上神社の裏手に出る。

①岡上神社 川崎市麻生区岡上 809

祭神は日本武尊。1909(明治42)年3月、岡上村中にあった五つの神社(諏訪神社、剣神社、日枝神社、宝殿稲荷神社、開戸神社)が合祀された。場所は岡上村の中心、諏訪神社の跡に村の名前を取って岡上神社とした。社殿には日露戦争の際の奉納額がかかっている。

②東光院(岡上山東光院宝積寺) 川崎市麻生区岡上 217

真言宗系の単立寺院。鎌倉道に向かい東向きに建てられ、それが寺名の起こりとなっている。仁王門は重層で門内左右に仁王像、その背面に六地藏、階上には阿弥陀三尊を中心に十王が安置されている。本尊は大日如来像。行基菩薩が関東下向の折り、鶴見川の川岸で光るものを見て、そこを掘らせると毘沙門様が出てきた。草庵を建て毘沙門様を祀ったのが寺の始まりと伝えられている。江戸時代につくられた『新編武蔵風土記稿』には「開山開基は詳らかとせずといえど、天正の頃(1573~1592)までに十一代に及ぶ」と記され



東光院の山門(仁王像が控えている)



東光院の本堂

ている。重層の仁王門には門内左右に仁王像、その背面には六地藏が三対ずつある。

境内の前を走る鎌倉道はハヤの道(鎌倉まで早駆して行ける道)として知られている。もと東光院境内にあった蚕影山祠堂(こかげさんしどう)は現在川崎市立日本民家園(川崎市多摩区生田緑地内)に移設されている。移設されたのは養蚕の神「蚕影山大権現」を祭った宮殿とその覆堂からなっている。これらは川崎市重要歴史記念物に指定されている。東光院境内には元ここに蚕影山祠堂ありきの石標「蚕影山跡」が建てられているのみである。岡上村は平地が少ないため水田も少なく畑地が多い。江戸時代末期の横浜開港以来、外国向け輸出品は絹糸や繭種が多く、都筑郡や南多摩郡全般に言えることで



はあるが、ここ岡上も横浜に近いことから情報も早く入り、畑地を桑畑に転換、養蚕に励んだことが偲ばれる。東光院より熊野神社に向うと県境を越えて神奈川県から東京都に入る。

③熊野神社 町田市三輪町 1925

上三輪の産土神。元慶元(877)年、奈良の三輪山に似ていることからこの地に熊野神社を勧請したとの伝承がある。「明和四(1767)年十月」の神幣の台座に「別当高蔵寺住法印亮怡」とある。祭神は伊邪那岐(いざなぎ)伊邪那美命(いざなみのみこと)で覆屋内の本殿(江戸中期建立)は町田市指定文化財になっている。ここ熊野神社の境内にも蚕繭供養(繭の字は虫偏であるが)の石碑があり、岡上だけではなく三輪地区でも養蚕が盛んで有ったと思われる。



蚕繭供養の石碑(三輪養蚕組建)



本殿に向って右の狛犬

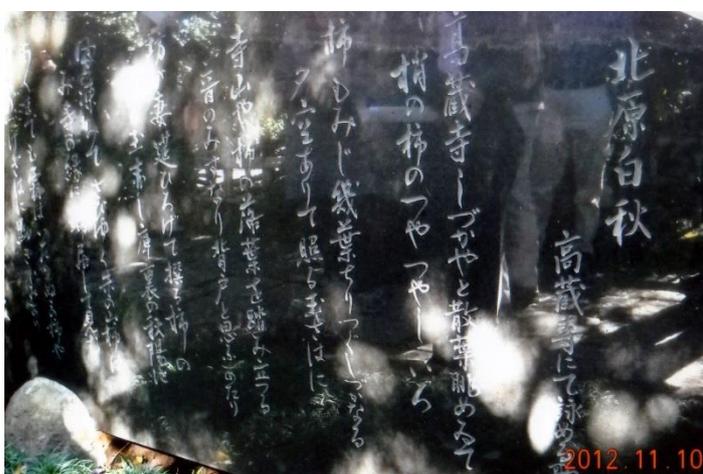
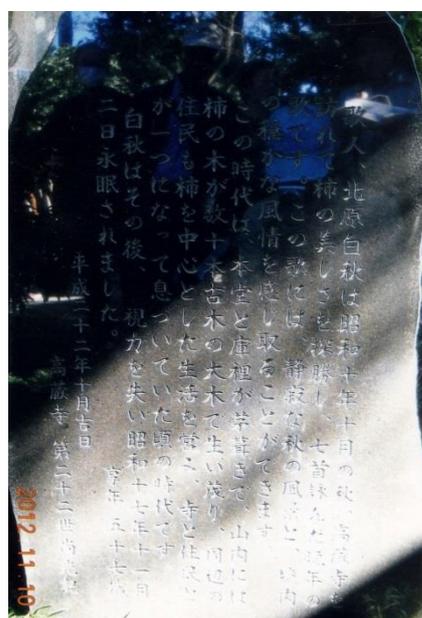
左の狛犬(奉)は町田の鶴川(野津田)出身の自由民権活動家として知られている村野常右衛門が寄進したことが台座に刻まれている。村野常右衛門は青年時代、野津田に文武道場「凌霜館(現在の町田市立自由民権資料館敷地)」を創設し若者に剣術や民権学習の場を提供した。後年政治や実業の世界に入り原敬内閣の立憲政友会の幹事長も歴任している。また横浜倉庫専務取締役、自由通信社社長、満州日日新聞社社長などを歴任した。また信州や甲州の荷物(主に絹製品)を短距離で横

浜に運ぶため、横浜鉄道会社、横浜・八王子間(現在のJR横浜線)の開設・施設に尽力したとも伝えられている。

④高蔵寺 町田市三輪町 1609

寺の入口には「弘明会館」という葬儀等に使用する立派な建物がある。真言宗豊山派。開山・開基等是不明。宝永7(1710)年に火災にあい、古記録・古器などいっさいを焼失した。昭和10(1935)年北原白秋が来訪し「高蔵寺しづかやと散葉眺めみて梢の柿のつやつやしいろ」など7首の作品を残している。現在は境内で七福神巡りが出来るようにな

っており、石楠花と季節の花々に囲まれた寺院である。多摩四国八十八ヶ所の第十番札所、また東国花の寺百ヶ寺の東京第5番札所として、多くの参拝客が訪れている。



高蔵寺にて詠める北原白秋の7首の詩を刻んだ石碑と由来の石碑。

⑤ 梶山神社 町田市三輪町 1618



下三輪の産土神。元慶元(877)年、奈良の三輪山に似ていることからこの地に勧誘したとの伝承がある。祭神は日本武尊・大物主命。この近辺には杉山神社が多いが、「梶」の字を使っているのはこの社だけである。

⑥ 地藏堂 町田市三輪町 1556

地藏堂は昔、高蔵寺の末寺、正善寺といい、1733年(享保18年)に旗本村上左衛門によって開山された。本尊地藏菩薩は三輪村の人々に深く信仰されていたが、明治元(1868)年、正善寺が廃寺になるため、人々の願いを聞き入れ、高蔵寺に合寺され高蔵寺地藏堂と

名を改めた。昭和 51 (1976) 年に新堂を建立し、地蔵を信仰する地蔵堂「鶴川地蔵尊」として、地域の人々に親しまれている。

⑦**廣慶寺** 町田市三輪町 1609

曹洞宗。三輪山廣慶寺という。元龜 3 (1572) 年に開かれ、釈迦を本尊とする。元々は現在の墓地に本堂があったが焼失したため、安政 4 (1857) 年に移転された。また明治初年に廃寺となった小野路村の清浄院福田寺の本尊、薬師像も安置されている。「平成の鐘」や五百羅漢、十二支の石像、仙台四郎などが参道に並んでいる。



⑧**妙福寺** 町田市三輪町 811



妙福寺の祖師堂



妙福寺の本堂

日蓮宗長祐山妙福寺。もと鎌倉妙本寺の末寺。明応 2 (1493) 年開山。祖師堂は寛文 12 年、池上本門寺より祖師像・宮殿と共にいただいた。祖師堂は東京都指定文化財。本堂・鐘楼門・高麗門（総門）は町田市指定文化財となっている。

以上で散策は終了して、鶴川女子短期大学より折り返してくる鶴川駅行きのバスを待つ。

文責：小林尚道